

## 平成28年度学校教育自己診断 まとめ

### 保護者

1. 「子どもは、学校へ行くのが楽しいようだ」は例年肯定感が強く、生徒のアンケートデータとも一致している。
2. 「子どもは、学校の授業がわかりやすいようだ」 4. 「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」 5. 「学校の教育方針に共感できる」 13. 「エリアの仕組みや選択科目の選び方はよくわかる」 14. 「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の5つの設問は、肯定感が増加し、否定感が減少している。
7. 「子どもの悩みや相談に先生は、親身になって応じてくれている」 9. 「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の2つの設問は、肯定感が横ばいで否定感が減少し、不明という回答が増加している。
12. 「子どもに学ばせたい選択科目が十分に用意されている」の設問は、昨年まで否定感が増加傾向であったのに対し、肯定感が増加している。
7. 「子どもの悩みや相談に先生は、親身になって応じてくれている」は、生徒・保護者ともに肯定意見が横ばい傾向にあるため、生徒、保護者、学校間の連携を高めていきたい。

昨年と比較すると「授業はわかりやすいようだ」が52%から61%に、「学校は教育方針を伝えてくれる」が51%から58%に、「進路についての情報をよく知らせてくれる」が46%から57%に肯定感が増加している。地道な取り組みの成果だと思われる。しかし、「いじめに対応してくれる」は不明が50%もあり、肯定感の40%を上回っている。生徒の結果と同じく、係る状況におかれていないために「不明」が増える傾向にあるのだが、取り組み内容を発信していく広報が不足していることの表れである。生徒や保護者への発信、問いかけを増やすことが必要である。